

第472回9月25日開催  
出席委員（50音順・敬称略）

荒巻 裕	大村 英昭
木下 明美	倉光 弘己
黒田 勇	櫻井 美幸
深井 麗雄	森 輝彦

ラジオ・スポーツ番組  
「毎日放送ダイナミックナイ  
ター」巨人 阪神3連戦  
9月13日（金）～15日（日）  
放送分

荒巻委員

関西ではどの局もタイガースびいきの放送になるのは仕方がないが、あまりタイガースべったりになるのは考え物だと思う。私は新聞記者の経験から、タイガースにやや距離を置いて見るようにしている。それと解説者をダブル制にするならば、一人はプロの目で冷静な分析ができる人にしてほしい。

倉光委員

さすがプロの解説者と思わせるような突っ込んだ話も大切だが、ある意味で楽屋ネタと言えるような話、選手一人一人に親近感を持たせるような話をもっとあってもよいと思う。ラジオの実況中継も、時代の流れに合った間の持たせ方、話題の転換の仕方など、もっと工夫が必要ではないか。

黒田委員

ラジオの野球中継はかなり成熟した文化だが、今だにアナウンサーと解説者の対話というスタイルが続いている。何か別の形を考える時期ではないだろうか。また野球中継は、間の文化、雑談の文化とも言えるが、同じ雑談でもその一歩先の話が是非ほしいと思う。

木下委員

プロ野球には特に思い入れはないが、以前アメリカでラジオの野球中継を聞く機会があり、球場全体のにぎやかな雰囲気の中で、実況自体は比較的冷静にさらっと行われていた。日本では、特にラジオの場合は映像がないので聴取者へのサービスなのか、「やかましい」というのが正直な感想である。

深井委員

一言だけ言わせてもらえば、野球放送の中に女性の声がほしいと思った。今の放送も新聞も、言ってみればおじさんのための放送でありページになっている。聴取者も読者も女性が多いと思うので、もっと女性を意識した工夫が必要ではないか。それが現在の放送と新聞共通の課題だと思う。

櫻井委員

にぎやかな放送か冷静な放送かは聞く人の好みによると思うが、やはり放送する側のタイガースへの距離感も関係するのではないか。アナウンサーの実況はうまいと思ったが、あのアナウンサーだから聞こうという名物アナウンサーと言われる人を育てることも大切だと思う。

大村副委員長

野球中継は雑談文化という話があったが、古い世代がワクワクするような、ノスタルジーを感じさせる話題もほしいと思った。また、野球中継の前番組や別の番組で、タイガースの興味深いエピソードなどを紹介するという立体的な演出も大切ではないか。

森委員長

アナウンサーの実況中継は分かりやすく、聞き応えがあった。今後の課題は、解説者の選択と解説者が事前に入念な情報収集と分析をし、リスナーが知り得ない話題性のある情報を提供することだと思う。

テレビ・ラジオの10月編成  
について

テレビ・ラジオの10月編成の基本方針や特徴について編成局長とラジオ局長が報告した。

平成14年度「日本民間放送連盟賞」の受賞作品について

今年度の日本民間放送連盟賞で、毎日放送が最優秀賞を4本、優秀賞を5本受賞したことなどを広報室長が報告した。